

事業環境と2011年3月期業績予想修正

代表取締役社長 竹中 博司

2010年7月30日



東京エレクトロン

事業環境



今期の事業環境

▶ SPE設備投資

世界経済の回復に伴い、半導体需要が大幅に伸長し、受注環境が急回復
年後半から来年前半には新規ラインも数多く計画されており、前期に比べ
2倍強の前工程投資が予想される

▶ FPD設備投資

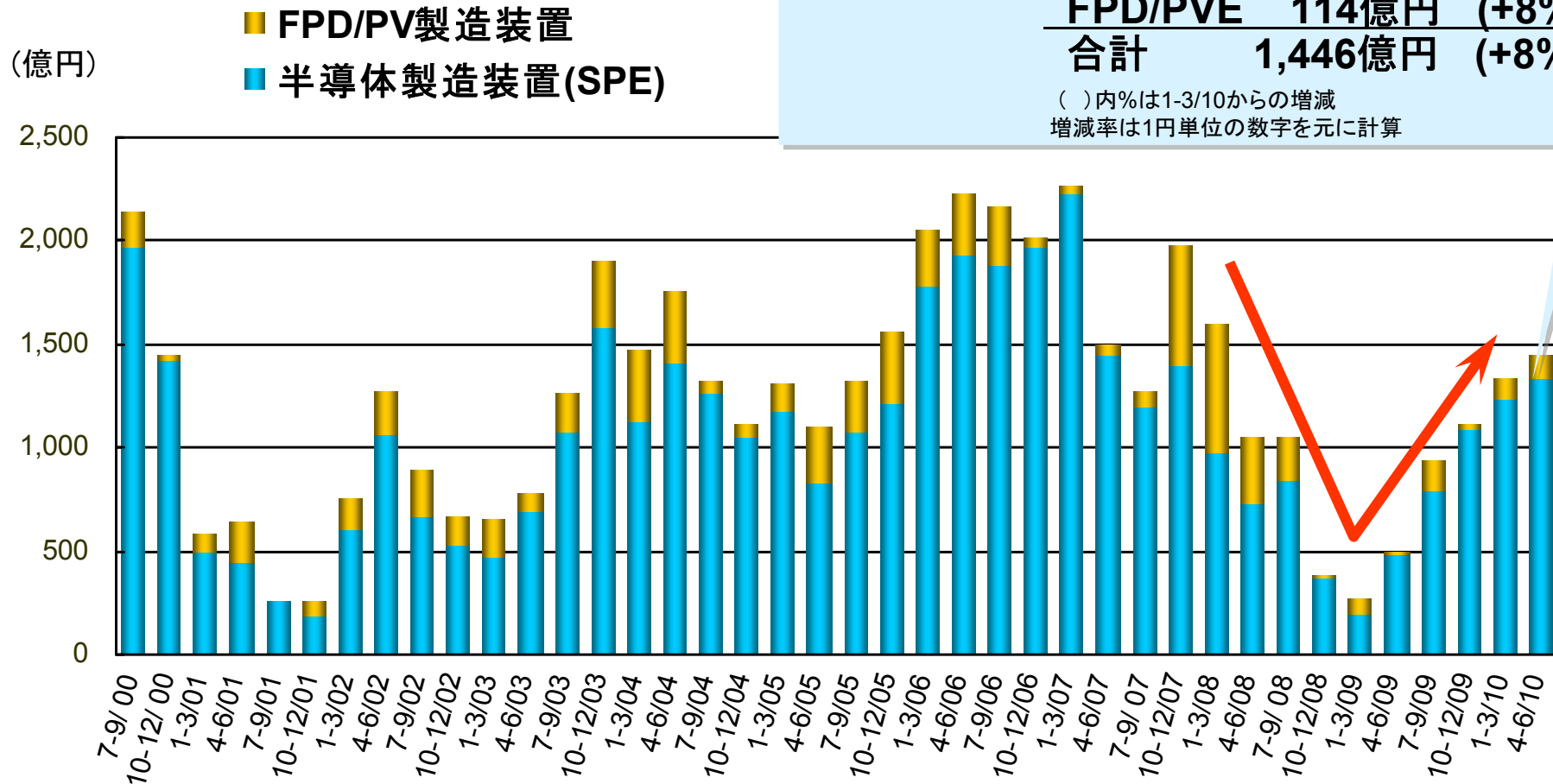
薄型TV需要は引き続き堅調で、新規ライン建設投資が中国を中心として継続

▶ PV設備投資

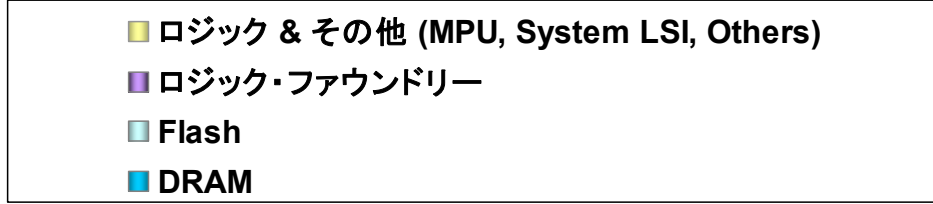
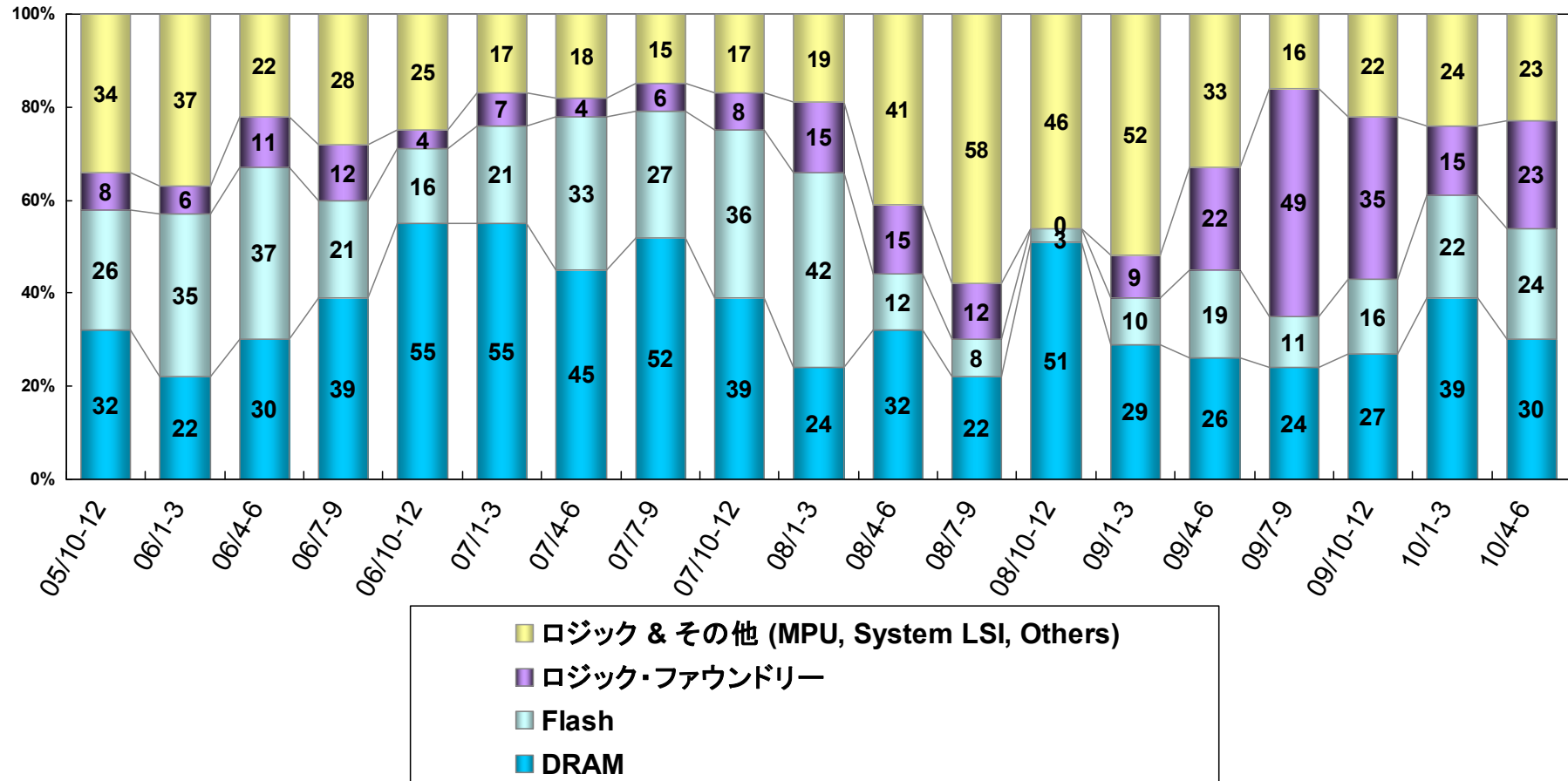
価格優位性により、単結晶シリコン系や化合物(Cd-Te)系が好調
一方、薄膜シリコン系は伸び悩んでいるが、中・長期的には成長を期待



四半期 SPE+FPD/PVE受注額



四半期 アプリケーション別SPE受注



注) グラフは装置本体受注における構成比を示しています



2011年3月期 業績予想修正



2011年3月期 業績予想修正

上期SPE収益の改善により、業績予想を上方修正

(億円)

	2010年3月期	2011年3月期					
		上期 (最新予想)	修正額*	下期 (予想変更なし)	通期 (最新予想)	修正額*	通期 対前年 増減
		売上高	4,186	3,250	+100	3,450	6,700
SPE	2,623	2,500	+100	2,610	5,110	+100	+95%
FPD/PVE	713	320	-	370	690	-	-3%
EC/CN	844	430	-	470	900	-	+7%
その他	4	-	-	-	-	-	-
営業利益	-21 (-0.5)	405 (12.5)	+75	460 (13.3)	865 (12.9)	+75	+886
経常利益	25 (0.6)	420 (12.9)	+80	460 (13.3)	880 (13.1)	+80	+855
税前利益	-77 (-1.9)	420 (12.9)	+80	460 (13.3)	880 (13.1)	+80	+957
当期純利益	-90 (-2.2)	300 (9.2)	+80	330 (9.6)	630 (9.4)	+80	+720
1株当り配当金 (円)	12	34	+9	37	71	+9	

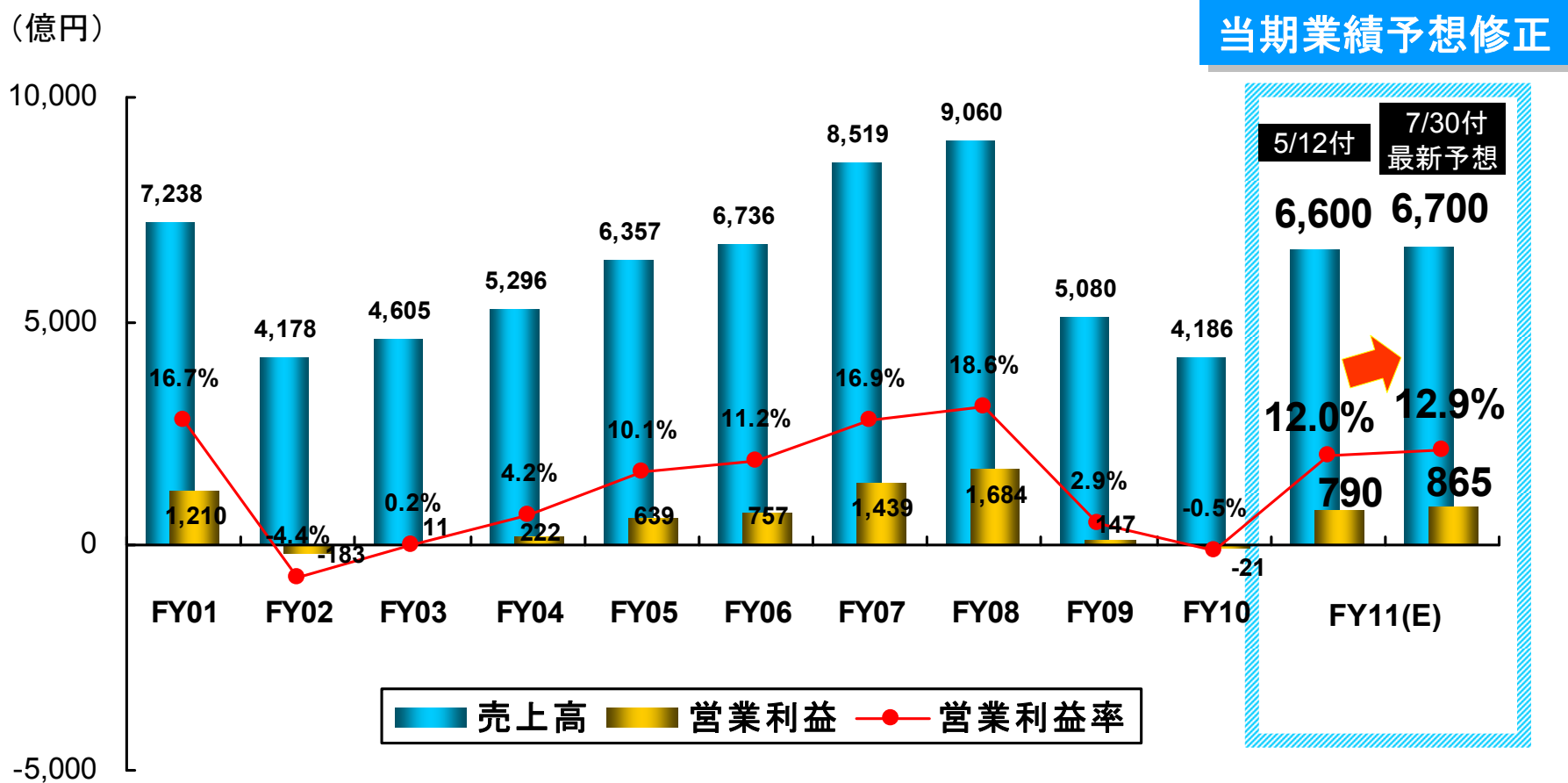
修正額*: 5月12日発表の期初予想からの増減

当社の主力製品である半導体製造装置及びFPD/PV製造装置の輸出売上は、原則円建てで行われます。一部にドル建ての決済もありますが、受注時に個別に先物為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしています。従って、収益への為替レート変動による影響は極めて軽微です。

1. SPE: 半導体製造装置, FPD/PVE: フラットパネルディスプレイ及び太陽電池製造装置, EC/CN: 電子部品/コンピュータ・ネットワーク
2. ()内は利益率、単位は%
3. 利益率及び増減率は、1円単位の金額をもとに計算しています。



売上高・営業利益・営業利益率推移



事業環境好転の中での収益力向上に向けた施策

▶ SPE

旺盛な需要に対応するために、生産能力増強と開発加速を目的とした投資を実行

- 宮城新工場7月着工、来年3月完成
- 既存工場の増設
 1. TEL九州(コータ/デベロッパ、洗浄装置)
7月着工12月完成、20%アップ
 2. TEL東北(熱処理成膜装置)
9月着工1月完成、30%アップ



宮城新工場完成予想図

▶ FPD

激化する競争環境へ対応するために、設計、調達、ロジスティックスを見直し、コストダウンを進める

サマリー

1. **2010年の半導体設備投資は、前年比で2倍強
2011年も二桁成長を見込む**
2. **SPE受注は、2011年に向けて好調維持
強い需要に対応するため、生産能力増強を決定**
3. **FPD設備投資は、新規ライン投資が中国を中心として継続
今後もコストダウン、および新規開発に一層の注力**
4. **上期SPE収益の改善により、連結業績を上方修正**

